

1. デジタル化と産業構造の変化に対応した法制度の現状と課題—税会計制度との調和の観点から—

研究代表者：池脇信一郎（経済学部）

デジタル化と産業構造の変化に対応した法制度における現状と課題について、税会計制度との調和の観点から追求することを目的に、研究会を定期的に開催してきた。租税法、会社法、財政学の各分野からの研究報告をもとに、学際的な議論を重ねてきた。計6回の研究会では、プロジェクトメンバーの研究報告だけでなく、スペインの大学から研究者を招聘し、オンライン上での国際研究交流も行った。特に国際課税や外国税制に関して多くの研究報告があり、デジタル化と産業構造の変化の中で法制・税会計制度が対応を迫られている問題について、最新の知見を共有することが出来た。

若手育成の面でも、博士後期課程の院生による報告、ならびに、博士前期課程の院生による研究会の参加（各回10～13名程度）があり、議論や研究交流を通じて、研究水準の向上に貢献することが出来た。また、研究成果の発信や社会貢献の面では、本研究プロジェクトの成果を報告書として取りまとめており、一定の貢献があったと考えられる。

一方で、プロジェクトメンバーの専門領域を中心とした問題の洗い出しの段階に留まっている点は依然として課題である。今後は、メンバーの個々の実績を積み上げるだけでなく、多様な専門分野の研究者によるプロジェクトの強みを生かし、特に交錯領域に焦点を当てたプロジェクトとしての成果を意識していきたい。また、本プロジェクトで築いた海外の研究者との研究交流を発展させ、国際共同研究や共同の成果発表につなげていきたい。

2. 新たな国内国際経済環境下の日中経済協力—中国東北全面振興を中心に—

研究代表者：高屋 和子（経済学部）

かつてウィーンには、郊外のハイキング地（カーレンベルク）に世界で2番目のラックレール方式の登山鉄道があった。本研究は1874年に開通した同鉄道を運営するカーレンベルク鉄道会社の経営資料を整理し、歴史上前例のない都市近郊の観光登山鉄道の経営のあり方を19世紀末までについて明らかにした。この企業の半世紀にわたる事業により、都市民は新たな文化活動のあり方を提示されることになったと考えられる。すなわち、従来は馬や従者を用いることができた貴族や裕福な市民の排他的なハイキングの場だったカーレンベルクが、幅広い社会層の日常的なハイキングの場になっていった。また従来は都市周辺の公園緑地での休養程度しか自然と親しむ機会のなかった多くの都市民にとって、貴族や上層市民しか実現できなかった夏季の避暑地での保養の場を、都市郊外の風光明媚なカーレンベルク山上のホテルやレストラン、貸別荘に見出すことが出来るようになった。今後は、同社の事業の19世紀末以降に視点を広げ、それ以前とは社会環境が大きく変容し、かつ鉄道・観光施設の老朽化も進むという条件下での事業の展開を明らかにすると共に、新技術を用いた鉄道会社の冒険的事業がウィーン市民に与えた影響を社会文化史的に議論したい。

3. 近代ヨーロッパにおける文化活動と科学技術～ツーリズム、交通、都市文化～

研究代表者：大塩 量平（経済学部）

かつてウィーンには、郊外のハイキング地（カーレンベルク）に世界で 2 番目のラックレール方式の登山鉄道があった。本研究は 1874 年に開通した同鉄道を運営するカーレンベルク鉄道会社の経営資料を整理し、歴史上前例のない都市近郊の観光登山鉄道の経営のあり方を 19 世紀末までについて明らかにした。この企業の半世紀にわたる事業により、都市民は新たな文化活動のあり方を提示されることになったと考えられる。すなわち、従来は馬や従者を用いることができた貴族や裕福な市民の排他的なハイキングの場だったカーレンベルクが、幅広い社会層の日常的なハイキングの場になっていった。また従来は都市周辺の公園緑地での休養程度しか自然と親しむ機会のなかった多くの都市民にとって、貴族や上層市民しか実現できなかった夏季の避暑地での保養の場を、都市郊外の風光明媚なカーレンベルク山上のホテルやレストラン、貸別荘に見出すことができるようになった。今後は、同社の事業の 19 世紀末以降に視点を広げ、それ以前とは社会環境が大きく変容し、かつ鉄道・観光施設の老朽化も進むという条件下での事業の展開を明らかにすると共に、新技術を用いた鉄道会社の冒険的事業がウィーン市民に与えた影響を社会文化史的に議論したい。

(以上)